

**第 6 次宝塚市総合計画**

**基本構想**

**(中間答申案)**

# 基本構想

## 1 スローガン

### わたしの舞台は たからづか

このまちをより良くしていくための取組がまちづくりです。

これからのまちづくりを市民と行政がともに進めるにあたり、「わたしの舞台は たからづか」をスローガンに掲げます。

このスローガンには、

**「活動・活躍できる場」(舞台)をつくり**

**「暮らし」(舞台)を支え**

**「まち」(舞台)を未来につなげていく**

との想いを込めています。

宝塚に関わるすべての人が幸せと感じられ、安心な毎日を過ごすことができる未来を願い、このスローガン掲げ、まちづくりを進めます。

このフレーズは、第6次総合計画の策定に向けた市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」の提言書の中で、まちづくりの視点として提言されたものです。

「市民が主体となり、こどもから大人まであらゆる世代がまちづくりに関わるが必要であり、『やりたい』ことができる環境を創り出し、まちを若返らせ、多くの市民が『つながり』を持てるようになることが大切」との想いが込められています。

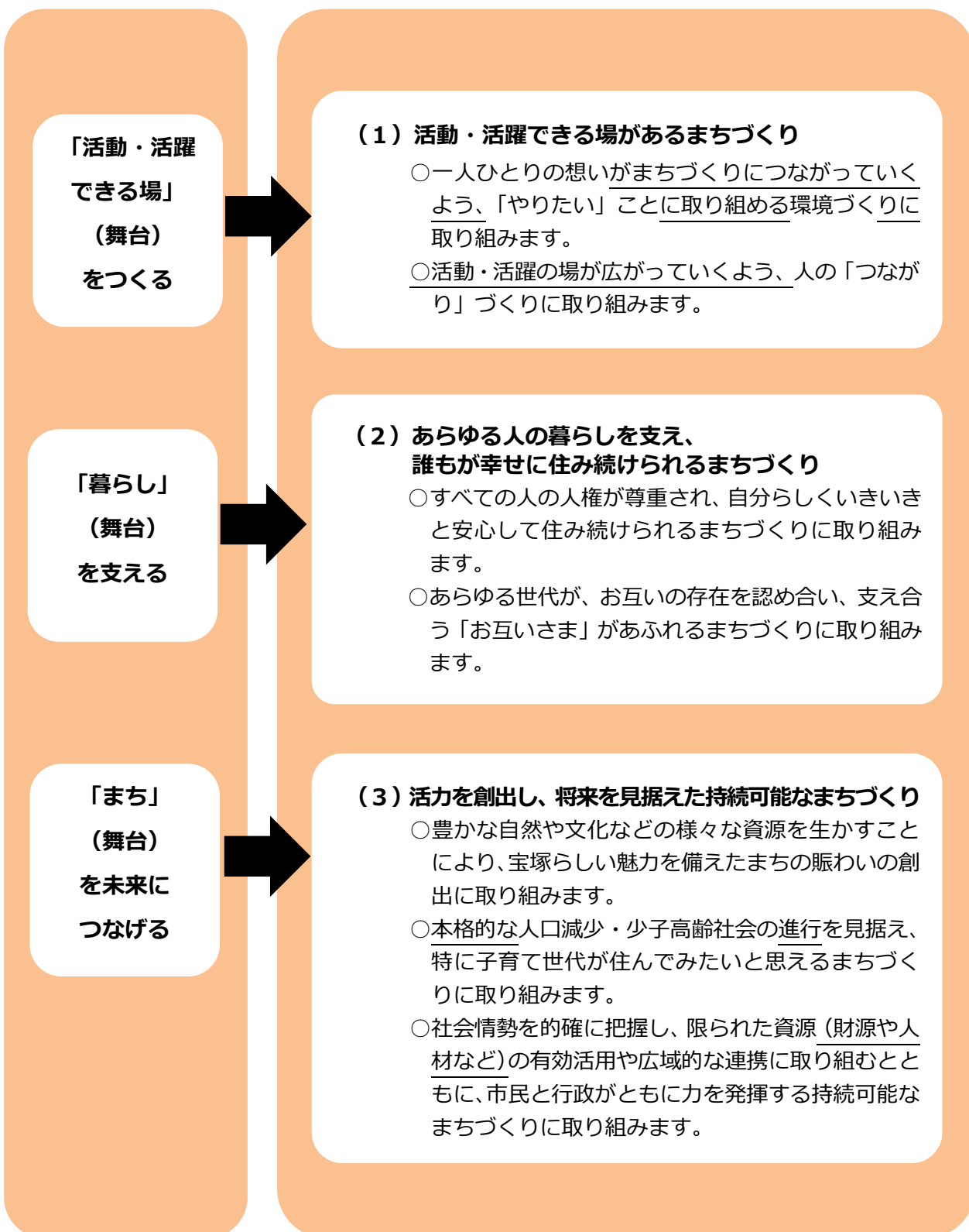
この想いを受け止め、さらに発展させ、総合計画のスローガンとして定めることとします。

## 2 まちづくりの視点

スローガンに込められた想いの実現に向けて、3つの重要なまちづくりの視点を定めます。

スローガンに込められた想い

3つの重要なまちづくりの視点



### 3 将来都市構造の基本的な考え方

#### (1) 土地利用の方針

本市は、豊かな自然緑地と田園環境を有する「北部地域」と「南部地域」の2地域で構成されています。さらに「南部地域」は、都市計画法に基づく市街化区域に概ね整合する「南部市街地」と、そこから展望できる山並みにあたる自然緑地の部分である「市街地周辺緑地」で構成されています。

このような都市構成のもと、土地利用の方針を次のように定めます。

##### ① 南部地域

###### ・南部市街地

原則として現在の市街化区域を堅持し、市街地の拡大を抑制します。

###### ・市街地周辺緑地

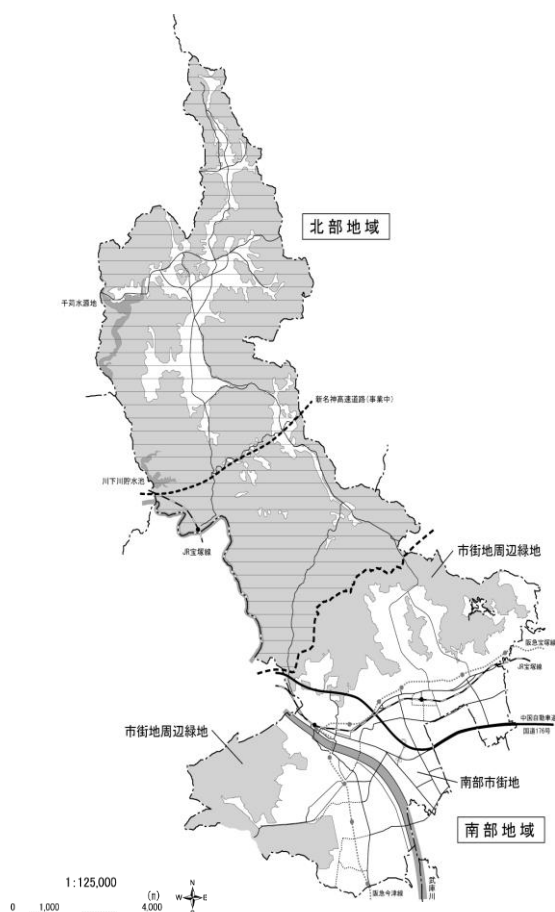
市民共有の財産であり、その保全や育成に努めるとともに、身近にふれあうことのできる緑地として整備に努めます。

##### ② 北部地域

集落住民の生活環境の充実を図るとともに、山林などの豊かな自然環境や水辺、農地を保全し、田園環境の形成に努めます。

#### (2) 人口減少等に対応したまちづくり

本格的な人口減少や少子高齢化が今後も進行することを見据え、上記の土地利用の方針のもと、既存の社会資本を最大限活用し、無秩序な市街化の拡散を抑制し、都市機能がコンパクトにまとまった持続可能なまちづくりをめざします。



## 4 めざすまちの姿

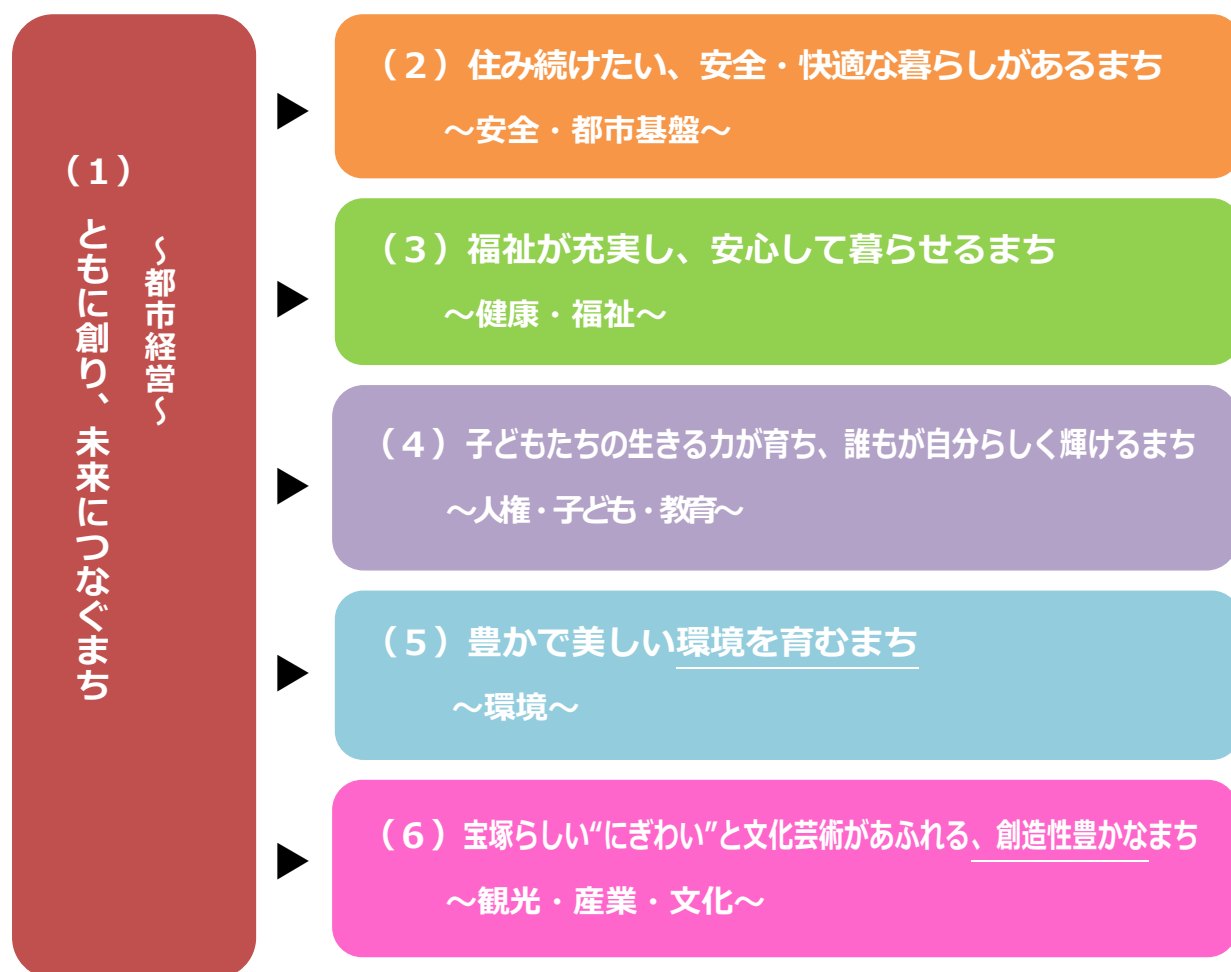
まちづくりの視点、将来都市構造の基本的な考え方を踏まえ、10年後のめざすまちの姿を以下のとおり定めます。

(1) は5つの分野に共通するめざすまちの姿として、(2)～(6)は、市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書をもとに、現状認識（社会経済動向や宝塚市の現状、市民アンケート調査の結果等）を踏まえ導いた、分野ごとのめざすまちの姿として定めるものです。これら6つのめざすまちの姿は、「地域ごとのまちづくり計画」の地域の将来像と整合を図っています。

### 【6つのめざすまちの姿】

5つの分野に共通する  
めざすまちの姿

5つの分野ごとのめざすまちの姿



# ※ (1) とともに創り、未来につなぐまち

～都市経営～

めざすまちの姿

- 一人ひとりが「やりたい」ことに取り組める環境が整えられ、あらゆる世代が関わる市民主体のまちづくりが展開されている。
- 協働の理解や取組がさらに広まり、市民と行政がそれぞれの役割を分担し、協力しながら、まちづくりを進めている。
- 市民と行政の情報共有が進み、交流と対話によるまちづくりが進んでいる。
- まちの情報や魅力が広く効果的に発信され、まちに関心や愛着を抱く人が増えている。
- ICTの活用による「スマート自治体」の推進により、行政運営が効率化するとともに、市民の利便性が向上している。
- 人口減少、少子高齢化など社会構造が変化する中でも、将来を見据えた持続可能な行財政運営により、効率的・効果的な行政サービスが提供されている。

①市民自治・協働

②開かれた市政

③情報化

④行財政運営

※「とともに」の主体は、「市民と行政」、「市民と市民」。

## 現状認識

①自治会加入率は減少傾向にある。行政との協働の取組を行っている人の割合は3.5%と低い。人口減少社会が到来し、少子高齢化が進行する中、まちづくりの担い手の確保が難しくなっている。

②近年、ICTが普及、発展し、情報の収集と発信、人の交流と対話の手段が多様化している。

③国において、Society5.0（超スマート社会）が提唱されている。自治体においても、AIなど高度なICTの活用が広がっている。

④SDGsを通じた持続可能な社会づくりが広がりを見せている。国の自治体戦略2040構想研究会において、新たな自治体行政の基本的方向性が示されている。

## (2) 住み続けたい、安全・快適な暮らしがあるまち

～安全・都市基盤～

めざすまちの姿

- 命や生活に関わる危機に市民と行政がともに備え、いざという時には、迅速かつ適切な対応をとれる体制が整っている。
- 地震や風水害に市民と行政がともに備え、地域で助け合う意識が高まることにより防災力が強化されている。
- 充実した消防救急体制のもとで、安心して暮らしている。
- 犯罪や交通事故がなく、誰もが安全・安心に暮らしている。
- 消費者トラブルの予防や対処に関する知識が広がり、自ら考え行動する消費者が増えている。
- 人口減少、少子高齢社会に対応し、豊かな自然や文化など様々な特性を生かしつつ、都市機能を集積するなどコンパクトなまちづくりが進んでいる。
- 良好な住宅を次の世代へつなぎ、誰もがずっと住み続けたいと思える魅力的な住環境が整っている。
- 歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。
- 河川の整備や土砂災害対策が進むとともに、うるおいや安らぎのある水辺空間がつくられている。
- 安全でおいしい水が安定して供給され、公共下水も適正に処理されている。

①危機管理・防災・消防

②防犯・交通安全

③消費生活

④土地利用・市街地・北部整備

⑤住宅・住環境

⑥道路・交通

⑦河川・水辺空間

⑧上下水道

### 現状認識

①全国で地震や大雨、台風による被害が多発している。今後30年以内の南海トラフ地震の発生率は80%となっている。高齢化の進行等により救急出動件数が増加傾向にある。

②人口あたり犯罪発生件数は、減少傾向にある。人身事故、死傷者数は減少していたが、近年は、下げ止まり傾向にある。

③高齢者の働き方や特種な被害の発生など、消費者を取り巻く環境が変化している。

④人口減少、少子高齢化の進行により、将来的には生活の利便性への影響が懸念される。

⑤市民アンケートで住環境の良さが評価されている。一方、人口減少、少子高齢化等により、住環境の変化が起きている。

⑥市民アンケートでは、「道路・交通」施策に対する満足度は低い。公共交通をはじめとする移動手段を必要とする人が増えつつある。

⑦近年、集中豪雨が多発しており、浸水被害や土砂災害のリスクが増大している。

⑧上下水道は、市民生活を支える重要なライフラインである。高度経済成長期以降に急速に整備された上下水道資産が、一斉に更新時期を迎えようとしている。市民の水道水質への関心が高まっている。

### 市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

#### 若返る安全・快適 Let's 生き活きたからづか

- ◇ 人口の構成が若返って、まちの活力が維持されている。
- ◇ 住環境が向上する。
- ◇ 安全な生活ができています。
- ◇ いざという時でも安心できる体制が整っている。

### (3) 福祉が充実し、安心して暮らせるまち

～健康・福祉～

めざすまちの姿

- あらゆる世代で体とこころの健康づくりが進み、安心して健やかに暮らしている。
- 病院・診療所や在宅で適切な医療を受けられる環境が整い、保健、医療、福祉の連携も進んでいる。
- すべての人の人権が尊重され、つながり、認め合い、支え合いながら、生きがいのある暮らしを送っている。
- 誰もが安心して生活を送ることができるよう、身近な地域で包括的な支援が受けられる体制が整っている。
- 高齢者がいきいきと活動し、健康で生きがいのある生活を送り、地域の様々な支え手になる高齢者が増えている。
- 障害(がい)者が地域で普通に暮らしていくための環境づくりが進み、自立した生活を送るとともに、社会に参加している人が増えている。
- 社会保障制度により、若い世代をはじめ、あらゆる世代の人々の安心して健やかな暮らしが守られている。

①健康・医療

②地域福祉

③高齢者福祉

④障<sup>がい</sup>者福祉

⑤社会保険

#### 現状認識

①生活習慣病や歯周病、こころの病が増加している。高齢者の増加に伴い、病気を抱える人が増え、在宅や施設で暮らし続けるための医療ニーズが高まっている。

②単身世帯の増加や人と人との関係性の希薄化により様々な課題を抱え込む人の増加が見込まれている。

③高齢者の中でも後期高齢者数が増加するため、介護認定を受ける高齢者、認知症の方の人数が増加する。一方で、生きがいを持って暮らしている高齢者の割合は低下している。

④障害者手帳の所持者数は微増で推移している。障害(がい)のある人が住み慣れた地域で生活するために必要な障害福祉サービス等の公的支援が整備されている。

⑤生活保護世帯は微増で推移し、若い世代をはじめ、様々な世代でニート・ひきこもりなどの問題が深刻化している。国民健康保険をはじめとする公的医療保険制度は、一人当たり医療費が増加傾向にあり、厳しい運営が続いている。

#### 市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

##### つながりの中で『すこやか』があふれるまち

- ◇ 健やかに暮らせる市民がたくさんいる。
- ◇ つながりが多様になり生きがいがある暮らしができています。



## (4) 子どもたちの生きる力が育ち、誰もが自分らしく輝けるまち

～人権・子ども・教育～

- すべての人の人権が尊重され、誰もがありのままに自分らしく 生きている。
- 子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。
- 子どもたちが、豊かな自然や文化に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。
- 妊娠期からの切れ目ない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを生み育てることができる環境が整っている。
- 学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓く子どもたちの生きる力やふるさと宝塚を大切に する心が育まれている。
- 誰もが生涯を通じて学ぶことができる とともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりにも生かされている。
- 様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっている。

①人権・同和・男女共同参画

②児童福祉・青少年育成

③学校教育

④社会教育

### 現状認識

①差別解消に向けた法整備が進む一方で、インターネットの普及による人権侵害が広がっており、多様な人権課題が顕在化している。女性の公職参画率及び市職員の管理職に占める女性の割合は伸びが止まっている。

②③子育てに関する保護者の孤立感や負担感が高まっている。また、発達など課題を抱えた子どもが増加傾向にあるほか、児童虐待の通告件数も増加している。家庭や地域における人間関係が希薄化しているほか、子どもの自尊感情を育む機会が減少している。また、子どもの貧困が社会的な問題となっている。

④少子高齢化に伴う社会の変化や個人の価値観、ライフスタイルの多様化に伴い、それぞれの生きがいや心豊かな生活につながる、一人ひとり自分に合った学習活動やスポーツ活動に取り組んでいる。

### 市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

#### あそびがそだつ こどもがつくる

- ◇ あそびの場や子育て環境が充実している。
- ◇ 日常的にこども同士や世代を超えた交流ができる。
- ◇ 次世代を担うこどもたちが、地域や学校の活動の中で、地域、社会への関わり方を学び、まちづくりに参加している。

## (5) 豊かで美しい環境を育むまち

～環境～

めざすまちの姿

- 北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしい景観が保たれ、魅力を増している。
- まちをうるおす「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増している。
- 自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。
- 地球温暖化の防止に向け、省エネルギーの取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。
- ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会に向けた取組が進んでいる。
- まちの美化活動により、きれいで快適な生活環境が保たれている。

①都市景観

②緑化・公園

③環境保全

④循環型社会

⑤都市美化・  
環境衛生

### 現状認識

①市民アンケートでは、「都市景観」施策に対する満足度は高い。

②市民アンケートでは、他都市より優れていることの1位がまちに緑や花があふれているところとなっており、魅力の一つとなっている。

③里山里山・まち山など、自然豊かな環境を有し、魅力の一つとなっているが、動物の絶滅が危惧されている。本市第3次環境基本計画の環境目標の一つである温室効果ガス(CO2換算)排出量が基準年度排出量(67万t-CO2)をオーバーしている。また近年、マイクロプラスチックによる海洋汚染も深刻な問題となっている。

④事業系燃やすごみ量は増加傾向にあるものの、家庭系ごみについては景観に対する意識の変革と3Rの意識が徐々に浸透しており市民一人当たりの燃やすごみ量は減少傾向にある。

また、多くの市民の取り組みにより資源リサイクル率は30%前後で推移している。

⑤市民アンケートでは、取り組むべきと感じている環境問題1位が生活環境の保全(ポイ捨て禁止など)となっており、市民のまちの美化に対する関心は高い。

### 市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

#### あふれる自然が夢となるまち

- ◇ 美しい自然の中で恵みある暮らしができています。
- ◇ 自然が守られ、活用(遊びなど)されている。

## (6) 宝塚らしい“にぎわい”と文化芸術があふれる、創造性豊かなまち

～観光・産業・文化～

宝塚らしいまち

- 既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。
- 起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物する人や働く人が増えている。
- 多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。
- 多様な働き方が広がり、働く意欲を持つすべての人が安心していきいきと働いている。
- 多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。
- 国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、ともに生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。

① 観 光

② 商 工 業

③ 農 業

④ 雇用・労働環境

⑤ 文化・国際交流

### 現状認識

①平成29年度（2017年度）に宝塚北スマートインターチェンジ、サービスエリアも開業した。訪日外国人は増加傾向にある。

②市民アンケートで買い物や余暇活動が不便との声が多い。人口減少によるまちの活力の低下が懸念される。

③農家戸数が減少傾向にあり、担い手、後継者が不足している。近年、農業分野と福祉分野が一体となって取り組む農福連携など、農の魅力を生かした取組が注目されている。

④共働き世帯の増加、ワーク・ライフ・バランスへの意識の高まりなど、ライフスタイルが変化している。

⑤文化芸術の振興により、心豊かな市民生活やまちの活力向上が期待できる。在日外国人との共生に対する社会の意識が高まっている。

### 市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

#### “にぎわい”を創り続けるまち

- ◇ 市内で買い物・飲食をもっと楽しんでいる。
- ◇ 西谷に行きたいと思う人が歌劇を観に行きたいと思う人と同じぐらい増えている。
- ◇ 市民も市外の人も、まち（市街地・西谷地域）の情報をよく知り、利用している。

#### 文化・歴史街道 たからづか

- ◇ 教育現場で子どもが宝塚の歴史に親しんでいる。
- ◇ 宝塚の文化・歴史が十分に発信できている。
- ◇ 大人（市民・観光客）が宝塚の歴史に親しんでいる。

## 5 計画の推進に向けて

### (1) 基本的な考え方

本市のまちづくりは、宝塚市まちづくり基本条例において、市民と市の協働を基本とし、市民と市が、それぞれに果たすべき責任と役割を分担しながら、相互に補完し、及び協力して進めることとしています。

また、その基本理念のもと、協働のまちづくりをさらに推進するため、「地域ごとのまちづくり計画」を「基本構想」を実現するための計画として位置付けました。

「基本構想」の実現に向けては、行政がとりまとめる「基本計画」と市民がとりまとめる「地域ごとのまちづくり計画」の両輪で推進します。

### (2) 具体的な取組の推進

「基本計画」と「地域ごとのまちづくり計画」に基づく具体的な取組の実施にあたっては、市民と行政の協働をより推進し、計画の実効性をさらに高めるため、双方の調整を図りながら進めていく仕組みを構築します。

### (3) 進捗管理

総合計画の進捗管理については、市民と行政がともに、計画 (Plan)、実施 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) という P D C A サイクルに基づき、着実に実施します。

イメージ図は、今後、検討します。